

谷保地域におけるルート検討の進め方について

コミワゴン泉ルート試行運行で明らかになった通り、需要の低い地域では、通行可能な道路を抽出し、停留所を置いて運行しても地元にとって便利なものとはならない。

■ 1 谷保地域エリア別の地域特性

(1) 甲州街道沿道地域

- a) 一本松地域
- b) 日野バイパス交差点以西～谷保天満宮付近
- c) 谷保天満宮以西～国立 1 小付近

(2) 国立府中インターチェンジ周辺（日野バイパス沿道地域）

- a) 三中・城山下周辺
- b) 下新田周辺

(3) 谷保地域について一般的な条件整理

- ・ 古くから住宅が立地している甲州街道沿道地域の高齢化が進むが、依然として沿道地域内の道路は狭隘区間が多い。
- ・ 多摩川の河岸段丘に特有の地形条件となっている。坂道があり高齢者には厳しい。
 - a) 古くは農地（田んぼ）が広がっていた多摩川沖積地は区画整理によって業務地となっているところが多い（インター付近の標高 58m）。
 - b) 多摩川沖積地から青柳段丘崖をあがると青柳段丘面となる。矢川駅や南養寺、谷保天満宮以西の甲州街道はこの段丘面に乗っている。一定の住宅の集積が見られる（南養寺付近の標高 68.4m）。
 - c) 青柳段丘面からさらに立川段丘崖をあがると立川段丘面となる。谷保駅、国立市役所、国立駅などはこの段丘面に乗っている（大学通りの標高 72m）。

※谷保天満宮以東は、青柳段丘崖と立川段丘崖が合わさっているため高低差が大きく坂道も長い。高齢者の自転車利用には厳しい。

- ・ 青柳段丘面や多摩川沖積地に建てられる新築住宅は自家用車の所有が多く（自家用車の車庫が 2 台分ある住宅も多い）、乗り合い交通に対する需要は低い。（但し、そこに住む高齢者等は移動手段が限られる）。

■ 2 エリア毎の交通に対するニーズの整理

- ・ 全てのニーズを定時定路線乗合のコミワゴンで満たすことはできない。それぞれのニーズを受けてどのような交通手段で何ができるのか。それがニーズ

にえられるのかよく議論する（勉強会、グループインタビュー、ひざ詰めの意見交換などを通じて幅広い議論が必要である）。

■ 3 具体的な検討メニュー

- ・ コミワゴンにとらわれず、サイクルアンドバスライド、自治会運営の乗合交通、電動三輪自転車の貸し出し等のほか、甲州街道・日野バイパスなどの幹線道路については路線バスの運行に向けた調整なども含め、総合的に交通についての利便性を検討する必要がある。

■ 4 今後のスケジュール

平成 27 年度末を目途に、方向性を整理する。

■ 5 留意点

実際の利用につながるようなニーズを十分に把握・整理しながらルート・ダイヤ等を検討していくことが肝要である。また、経費についても十分に周知を図るとともに、経費対効果についても十分に検討する。

（参考）



図 1 谷保地域の状況図